

2020年度 シラバス

科目名	動物薬理学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NA2004		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第2巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、動物看護師による薬物の取り扱いや神経系に作用する薬物について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	動物薬理学の基礎①		獣医臨床における薬物治療の概念、目的の理解					
第2回	動物薬理学の基礎②		薬理作用とその発現機構					
第3回	動物薬理学の基礎③		薬物形態（吸収、分布、代謝、排泄）と半減期、耐性について					
第4回	動物薬理学の基礎④		薬物間相互作用について					
第5回	動物薬理学の基礎⑤		副作用について					
第6回	動物看護師による薬物の取り扱い①		投薬量/薬物の剤形と各種投薬法の理解					
第7回	動物看護師による薬物の取り扱い②		薬物の適切な分類と法規、最適な管理方法					
第8回	神経系に作用する薬物①		全身麻酔薬、局所麻酔薬について					
第9回	神経系に作用する薬物②		痛みについての知識、鎮痛剤について					
第10回	神経系に作用する薬物③		運動神経系について					
第11回	神経系に作用する薬物④		鎮静薬、抗けいれん薬について					
第12回	神経系に作用する薬物⑤		問題行動の治療に用いられる薬について					
第13回	呼吸器系に作用する薬物		呼吸興奮薬/鎮咳薬/気管支拡張薬について					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2020年度 シラバス

科目名	動物薬理学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NA2005		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物薬理学Ⅰの単位履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第2巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、循環器・泌尿器に作用する薬物や消化器に作用する薬物、オータコイド、代謝・内分泌系の薬物、血液・免疫系に作用する薬物・化学療法薬について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備考		
第1回	循環器・泌尿器に作用する薬物①		血管拡張薬（降圧薬）/心不全治療薬（強心薬）について					
第2回	循環器・泌尿器に作用する薬物②		抗不整脈薬/利尿薬について					
第3回	消化器に作用する薬物①		制吐剤/抗瘍薬/消化管運動に作用する薬について					
第4回	消化器に作用する薬物②		止瀉薬と瀉下薬/肝疾患、胆道疾患の治療薬について					
第5回	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物①		オータコイドとは（分類）					
第6回	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物②		糖尿病治療薬について					
第7回	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物③		甲状腺ホルモン製剤/ステロイドホルモンについて					
第8回	血液・免疫系に作用する薬物①		抗貧血薬/血液凝固抑制薬と血液凝固促進薬（止血薬）について					
第9回	血液・免疫系に作用する薬物②		抗炎症薬/免疫抑制薬について					
第10回	化学療法薬①		抗菌薬/抗真菌薬について					
第11回	化学療法薬②		駆虫薬について					
第12回	化学療法薬③		殺虫薬について					
第13回	化学療法薬④		抗腫瘍薬について					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	○	○					20	優（A）:89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良（B）:79点～70点
授業態度			○	○			10	可（D）:69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2020年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NA2006		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第2巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	動物感染症の概論、微生物について説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護学総論を理解し、感染の発症・経路や細菌について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	動物感染症学総論 動物感染症の成立		感染症の定義 感染成立の3要素、動物感染症の経過と理解、動物感染症の流行					
第2回	感染と発症		潜伏期、不顕性感染、日和見感染、自然宿主、中間宿主と終宿主、媒介動物、ベクター					
第3回	感染の経路		水平感染と垂直感染、感染経路の種類					
第4回	宿主の感受性		感染防御、自然免疫、獲得免疫					
第5回	感染経路の具体的な遮断方法		各感染経路の遮断について(経口感染、経皮感染、創傷感染、飛沫感染)					
第6回	病原微生物とは 細菌①		病原微生物とは 細菌とは。構造と分類					
第7回	細菌②		増殖、細菌の培養と同定、治療					
第8回	細菌③		緑膿菌感染症、パストレラ症、ブルセラ症					
第9回	細菌④		ボルデテラ症、犬のライム病、カンピロバクター症、破傷風					
第10回	細菌⑤		結核、膿皮症、子宮蓄膿症、外耳道炎等					
第11回	細菌⑥		特殊な細菌(マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア)					
第12回	真菌①		真菌とは、構造と種類、検査、治療と予防					
第13回	真菌②		マラセチア症、クリプトコッカス症、カンジダ症等					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2020年度 シラバス

科目名	動物感染症学Ⅲ		単位数	1	科目コード	NA2008		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。 感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。							
授業の一般目標	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ							
受講条件	動物感染症学Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第2巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	ワクチンについて説明できる。 2. 感染症予防における滅菌・消毒の重要性を説明することができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	産業動物の代表的な感染症①		乳房炎、口蹄疫					
第2回	産業動物の代表的な感染症②		伝染性海綿状脳症、高病原性鳥インフルエンザ					
第3回	実験動物の代表的な感染症①		腎症候性出血熱、サルモネラ症					
第4回	実験動物の代表的な感染症②		センダイウイルス、肺マイコプラズマ病、ティザー病					
第5回	野生動物の代表的な感染症		人に対する人獣共通感染症の感染源、感染巣					
第6回	予防ワクチン①		犬と猫のワクチンの種類、コアワクチンとノンコアワクチン					
第7回	予防ワクチン②		接種プログラム、WSAVAワクチネーションプログラム、副反応					
第8回	免疫①		免疫とはなにか、免疫応答、自然免疫と獲得免疫					
第9回	免疫②		抗体産生、抗体の移行、自己免疫疾患					
第10回	アレルギー		アレルギーとはなにか、アレルギーの種類					
第11回	衛生管理		微生物制御と感染症対策/海外からの侵入防止対策、国内における防疫対策					
第12回	消毒と滅菌/小動物の消毒と滅菌		消毒と滅菌の定義、目的、方法、注意点/滅菌法と消毒薬					
第13回	産業動物の消毒と滅菌		外部からの病原微生物の侵入・持ち込み防止、外部への病原微生物の排出阻止					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2020年度 シラバス

科目名	伴侶動物Ⅰ		単位数	1	科目コード	NB2009		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第4巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルとは何かを説明することができる。 2. 各動物の特徴や飼育方法について説明することができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
伴侶動物の歴史と代表的な品種について理解し、本校で飼育している小動物の飼育管理について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	ウサギの品種と特徴①		ウサギの生態について					
第2回	ウサギの品種と特徴②		ウサギの飼養管理・飼養施設/ウサギの主な疾病					
第3回	ウサギの品種と特徴③		ウサギの飼養管理・飼養施設/ウサギの主な疾病					
第4回	フェレットの特徴①		フェレットの生態について					
第5回	フェレットの特徴②		フェレットの飼養管理・飼養施設/フェレットの主な疾病					
第6回	モルモットの特徴①		モルモットの生態について					
第7回	モルモットの特徴②		モルモットの飼養管理・飼養施設/モルモットの主な疾病					
第8回	ハムスターの品種と特徴①		ハムスターの生態について					
第9回	ハムスターの品種と特徴②		ハムスターの飼養管理・飼養施設/ハムスターの主な疾病					
第10回	チンチラの特徴/ハリネズミの特徴		チンチラの生態について/ハリネズミの生態について					
第11回	飼鳥の品種と特徴①		飼鳥の飼養管理・飼養施設					
第12回	飼鳥の品種と特徴②		繁殖・発情行動について					
第13回	飼鳥の品種と特徴③		飼鳥の主な疾病					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					10	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					20	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2020年度 シラバス

科目名	伴侶動物Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2010		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	伴侶動物の歴史や品種、飼育方法およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	伴侶動物Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	犬の品種の特徴や飼養管理について説明することができる。 2. 猫の品種の特徴や飼養管理について説明することができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
伴侶動物の歴史と代表的な品種について理解し、犬の品種尾と特徴、猫の品種と特徴を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	F C I インターナショナルドッグショー見学		校外授業 (出席・レポート提出にて評価)				2020年5月実施	
第2回								
第3回								
第4回	伴侶動物の種類と歴史		犬、猫、エキゾチックアニマについて					
第5回	犬の品種と特徴①		犬の歴史					
第6回	犬の品種と特徴②		犬の品種①(J K C 第 1 G ～第 4 G)					
第7回	犬の品種と特徴③		犬の品種②(J K C 第 5 G ～第 8 G)					
第8回	犬の品種と特徴④		犬の品種③(J K C 第 9 G ～第10G) /犬の飼育管理(すまい)について					
第9回	犬の品種と特徴⑤		犬の飼育管理②(食事、健康管理) /日々の関わりについて					
第10回	猫の品種と特徴①		猫の歴史について					
第11回	猫の品種と特徴②		猫の品種について					
第12回	猫の品種と特徴③		猫の飼育管理①(すまい、食事)について					
第13回	猫の品種と特徴④		猫の飼育管理②(健康管理)、日々の関わりについて					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2020年度 シラバス

科目名	動物外科看護学		単位数	2	科目コード	NC2002		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。							
授業の一般目標	動物の臨床看護に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第6巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	外科診療補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物に対して外科処置を行う状況・目的を理解し、術前準備や麻酔、術中補助、術後管理、救急救命、理学療法を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	動物に対して外科処置を行う状況・目的	外科診療時の補助に必要な技術						
第2～3回	術前準備①	術前手続きや術前検査/無菌的処置の重要性について						
第4回	術前準備②	手術器具の準備、滅菌法について						
第5回	術前準備③	手術室の衛生的清掃と機器類、準備について						
第6～8回	術前準備④	機器台の準備/術者に必要な準備について						
第9回	麻酔①	麻酔処置時における動物看護師の役割について						
第10～12回	麻酔②	麻酔リスク/麻酔前投薬/注射麻酔の手法/吸入麻酔の手法について						
第13～18回	術中補助①	代表的な手術機器の名称、使用法について						
第19回	術中補助②	直接補助、間接補助の内容について(麻酔モニタリング)						
第20～21回	術後管理①	麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて						
第22～24回	術後管理②	痛みと創傷管理						
第25～26回	理学療法	理学療法の目的と意義について				※2020年12月実施 ‘ペットファーストエイド’講座にて		
第27回	救急救命処置Ⅰ①	救命方法の知識の実践①						
第28回	救急救命処置Ⅰ②	救命方法の知識の実践②						
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する				※学生証が必要		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2020年度 シラバス

科目名	動物臨床栄養学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NC2006		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第6巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	大栄養素とその代謝について説明することができる。 2. ライフステージや疾患別の療法食について説明することができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素＋水(6大栄養素)を理解し、ライフステージによる栄養管理や疾患別による栄養特性を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	動物栄養学総論①		6大栄養素 (1. タンパク質、2. 脂肪(脂質))					
第2回	動物栄養学総論②		6大栄養素 (3. 炭水化物、4. ビタミン、5. ミネラル、6. 水)					
第3回	動物栄養学総論③／犬猫の必要栄養素の違い		過剰症と欠乏症／食性の違い					
第4回	ペットフードの表記		ペットフード安全法で規定されている表記					
第5回	ライフステージによる栄養管理①		犬のライフステージについて(成長期、維持期)					
第6回	ライフステージによる栄養管理②		猫のライフステージについて(成長期、維持期) 犬と猫の加齢性変化					
第7回	ライフステージによる栄養管理③		繁殖期・妊娠期・授乳期の栄養管理					
第8回	BCS評価およびカロリー計算		BCSとは／カロリー計算(食物のカロリー・犬や猫のエネルギー要求量)					
第9回	肥満と消瘦／フードの給与回数、給与方法		肥満と消瘦とは/フードのタイプ：目的別の分類、給与回数、給与方法					
第10回	手作り食		嗜好性とは／ペットフードの適切な取扱い／手作り食					
第11回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患①)		食事療法食の表記と取扱い/下部尿路疾患とは／猫の特発性膀胱炎					
第12回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患②)		尿路結石について①					
第13回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患③)		尿路結石について②					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習							－	
出席			◎				10	
担当教員	茂田 彩也夏			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/shigeta/			

2020年度 シラバス

科目名	動物医療コミュニケーション		単位数	1	科目コード	NC2010		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版) 第6巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 動物の健康管理について飼い主向けに説明できる。 2. 院内におけるコミュニケーションの重要性を説明することができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
クライアントエデュケーションを理解し、クライアント(飼い主)が求める8つの条件や院内コミュニケーション、グリーフケアを学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備考		
第1回	クライアントエデュケーション①	クライアントエデュケーション概論について						
第2回	クライアントエデュケーション②	クライアントサービスについて						
第3回	クライアントエデュケーション③	適正飼育、健康管理の必要な情報提供/動物と飼い主の良好な関係構築について						
第4回	クライアントエデュケーション④	病気の適切な予防法について①						
第5回	クライアントエデュケーション⑤	病気の適切な予防法について②						
第6回	クライアントエデュケーション⑥	病気の適切な予防法について③						
第7回	クライアントエデュケーション⑦	接遇とホスピタリティについて						
第8回	クライアントエデュケーション⑧	在宅治療(往診)におけるコミュニケーション技能について						
第9回	院内コミュニケーション①	飼い主教育を主体としたインフォームドコンセントについて						
第10回	院内コミュニケーション②	医療面接のプロセス/チーム医療に関するコミュニケーション技能について						
第11回	院内マネジメント①	受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について						
第12回	院内マネジメント②	物品購入や管理/動物保健医療について						
第13回	グリーフケア	看取り、お別れ、お見送り、ペットロスのこと						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	茂田 彩也夏			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/shigeta/			

2020年度 シラバス

科目名	動物形態機能学実習Ⅱ			単位数	1	科目コード	ND2002	
授業形態	実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物形態機能学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」、学窓社出版「犬の解剖カラーリングアトラス」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 生体を外から観察した際に解剖学的なイメージができる							
☐ 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
骨格標本や模型を用いながらの実習授業および各種専門分野の企業連携授業。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容			備 考		
第1回	各種専門分野の連携授業		形態機能学：鳥類			野生動物学専門講師による特別授業		
第2回			形態機能学：爬虫類			野生動物学専門講師による特別授業		
第3回			形態機能学：両生類			野生動物学専門講師による特別授業		
第4回			形態機能学：魚類			野生動物学専門講師による特別授業		
第5回			形態機能学：眼科分野			製薬企業による特別授業		
第6回			形態機能学：デンタルケア、皮膚系			製薬企業による特別授業		
第7回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。			※学生証が必要		
第8回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2020年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習Ⅰ		単位数	1	科目コード	ND2008		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物外科看護学を履修している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点	手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物外科看護学の理論を基に手術における実践及び術後管理や救命救急を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容		備考			
第1回	リネン類のたたみ方		手術衣・ドレープ類を準備し、滅菌することができる					
第2回	手術室準備・気管内挿管		手術室の準備を行うことができる 気管内挿管の準備・補助ができる					
第3回	手指消毒・ガウン装着①		手指消毒・手術着装着が正しくできる					
第4回	手指消毒・ガウン装着②							
第5回	手袋装着		closed cuff methodで3分以内に手術手袋を装着できる					
第6回	各種器械使用方法		各種手術器械が正しく使うことができる					
第7回	手術器具準備・器具滅菌		手術器具の準備・滅菌ができる					
第8回	救急救命処置Ⅰ①		救命方法の知識の実践①		※2020年12月実施 ペットファーストエイド講座にて			
第9回	救急救命処置Ⅰ②		救命方法の知識の実践②					
第10回	救急救命処置Ⅰ③		救命方法の知識の実践③					
第11回	救急救命処置Ⅰ④		救命方法の知識の実践④					
第12回	救急救命処置Ⅰ⑤		救命方法の知識の実践⑤					
第13回	救急救命処置Ⅰ⑥		救命方法の知識の実践⑥					
第14回	授業振り返り／単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける		※学生証が必要			
第15回	テスト返し／解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							－	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2020年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅰ	単位数	1	科目コード	NH2001			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	伴侶動物学Ⅰ学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。							
受講条件	伴侶動物学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	本校飼育動物の適正と言われる飼育について説明できる。							
□ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
□ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
□ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
□ 技能・表現の観点	事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	事前準備 1	飼育を取りかかる前の確認			講義			
第2回	飼育時の留意点 1	飼育時の留意点を確認						
第3回	協働で質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける						
第4回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第5回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1							
第6回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2							
第7回	チームを意識した高い飼育を目指す 1							
第8回	チームを意識した高い飼育を目指す 2							
第9回	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す 1							
第10回	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す 2							
第11回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1							
第12回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2							
第13回	試験の説明・準備	今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る			※飼育は当番学生のみで行う。 試験はグループで行うため、グループに分かれ、準備をする。			
第14回	試験準備							
第15回	期末試験(発表)	まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う			※飼育は当番学生のみで行う。			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							－	秀 (S):100点～90点
小テスト							－	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							－	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			20	可 (D):69点～60点
発表・作品	○	○	○	○			40	不可(E):59点以下
演習			○	○	○		30	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2020年度 シラバス

科目名	実験動物学		単位数	1	科目コード	NB2012		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実験動物の歴史や品種、飼養管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。							
授業の一般目標	様々な動物の特性と人との関わりを理解する							
受講条件	伴侶動物学の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	実験動物学各種用語について簡単に説明ができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
実験動物の目的・意義について理解し、代表的な実験動物の飼育管理や繁殖法を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	実験動物の基礎①		動物実験の目的と意義について					
第2回	実験動物の基礎②		動物種・品種・系統の概念について					
第3回	実験動物の基礎③		代表的な実験動物の飼育管理・繁殖法について					
第4回	実験動物の制御と疾患モデル動物		飼育管理法、各種動物の保定の仕方、個体管理と記録、管理者の教育と安全					
第5回	実験動物施設見学		実験動物施設を見学し、飼養管理の実際を学ぶ					
第6回								
第7回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第8回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2020年度 シラバス

科目名	動物臨床栄養学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NC2007		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	動物病院業務に必要な知識を修得する							
受講条件	動物臨床栄養学Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	疾患別の療法食について説明することができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素＋水(6大栄養素)を理解し、疾患別による栄養特性、強制給餌と経管・静脈栄養を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備考	
第1回	疾患別による栄養特性（皮膚疾患①）		皮膚疾患の種類／食物アレルギー①					
第2回	疾患別による栄養特性（皮膚疾患②）		食物アレルギー②／犬アトピー性皮膚炎					
第3回	疾患別による栄養特性（肥満）		肥満について					
第4回	疾患別による栄養特性（下痢・猫の便秘）		下痢について／猫の便秘について					
第5回	疾患別による栄養特性（心臓病①）		心臓のしくみ					
第6回	疾患別による栄養特性（心臓病②）		僧帽弁閉鎖不全症とは					
第7回	疾患別による栄養特性（慢性腎臓病①）		腎臓のしくみ					
第8回	疾患別による栄養特性（慢性腎臓病①）		慢性腎臓病について					
第9回	疾患別による栄養特性（肝臓病）		肝臓のしくみ／肝臓病について					
第10回	疾患別による栄養特性（糖尿病）		糖尿病について					
第11回	疾患別による栄養特性（関節疾患）		関節疾患について					
第12回	強制的な給餌方法/経路別の栄養		強制給餌方法/経管・計静脈による栄養の種類と違い					
第13回	中毒物・与えてはいけないもの		犬・猫に危険な、あるいは気をつけたい主な食材とその理由					
第14回	授業振り返り/単位認定試験		授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀（S）:100点～90点
小テスト	○	○					20	優（A）:89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良（B）:79点～70点
授業態度			○	○			10	可（D）:69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/			

2020年度 シラバス

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ			単位数	2	科目コード	ND2009	
授業形態	実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	手術準備(動物・手術器具)、術中・術後管理、麻酔準備や麻酔管理や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物外科看護学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第6巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点	手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物外科看護学の理論を基に手術における実践及び術後管理や救命救急を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容			備 考	
第1～2回	救急救命処置Ⅱ①			救命方法の知識の実践①			2年次に行われる 救急救命セミナーにて	
第3～4回	救急救命処置Ⅱ②			救命方法の知識の実践②				
第5～6回	手術準備			手術台への動物の固定や器械台のい準備、術野の消毒ができる				
第7～8回	麻酔器・各種モニター装着			麻酔器の接続やモニター機器を動物に接続することができる				
第9～10回	術中補助			直接補助(手術助手・器械の受け渡しなど)ができる 関節補助(无影灯や手術台の操作など)ができる				
第11～12回	歯科処置準備・補助			歯科器具の取り扱い方を理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる				
第13～14回	衛生管理			術後の創傷管理(ネット・カラー装着なども含む)ができる				
第15～16回	手術見学:事前学習≪グループワーク≫			手術見学において、必要なことを考え準備ができる				
第17～18回	手術見学:事後学習			前回行った手術について振り返りを行う				
第19～20回	人と動物の関係および行動学			アニマルマッサージを始めるにあたっての基礎知識				
第21～22回	犬の解剖学および生理学			骨格、筋肉/筋肉の停止部と起始部について				
第23～24回	リラクゼーションマッサージテクニック			マッサージテクニックの種類、実践				
第25～26回	メンテナンスマッサージテクニック			マッサージテクニックの種類、実践				
第27～28回	実習／フィールドワーク							
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説			授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する			※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2020年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ		単位数	1	科目コード	NH2002		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、グループとして適切な解答ができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点	グループでコミュニケーションをとり、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す		動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける					
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	観察力アップから質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	自己評価から質の高い飼育を目指す							
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	飼育実技試験		グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる 飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							－	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							－	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

2020年度 シラバス

科目名	動物飼育実習Ⅱ			単位数	1	科目コード	NH2003	
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	緑書房出版「動物看護の教科書(新訂版)第4巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト第2版」							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、個人で適切な解答ができる。							
☐ 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
☐ 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
☐ 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
☐ 技能・表現の観点	チーム医療を意識し、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して質の高い飼育を目指し、動物看護師として倫理観を備えた飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題			授 業 内 容				備 考
第1回	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す			動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける				
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す							
第10回								
第11回								
第12回								
第13回	学年末試験①			2チームに分かれ、前半組が実習試験 後半組は筆記試験を行う				※飼育動物の頭数・ストレスを考え、学年末試験は2回に分けて行う ※学生証が必要
第14回	学年末試験②			前回のチームで、後半組が実習試験 前半組は筆記試験を行う				
第15回	飼育実習の総括			動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			